

【 会員のページ 】

徂徠道夫会員が錯体化学会貢献賞を受賞

2012年9月21日～23日に富山大学で開催された錯体化学会第62回討論会において、本会元会長で大阪大学名誉教授の徂徠道夫博士が錯体化学会貢献賞を受賞された。受賞理由は「機能性金属錯体の分子論的熱力学の展開」に対する貢献とのことであった。錯体化学討論会（当初は錯塩化学討論会）は日本の化学分野で最も歴史の長い伝統ある討論会で、本討論会を主催している錯体化学会（会員数約1,100名）が徂徠先生のこれまで行ってこられた金属錯体の熱力学的研究を高く評価されたことは、私たち熱測定に携わる者にとって大いなる慶びと誇りであり、大変励みとなる受賞であった。ここに、お祝いを申し上げると共に感謝の意を表したいと思う。

本討論会会期中に授与式と徂徠先生による受賞講演が行われた。受賞講演は、物性研究に対する熱力学的手法の有効性、特にエントロピーの重要性に始まり、5配位Fe(III)錯体の磁気相転移、強磁性電荷移動錯体の磁気構造・磁気異方性、集積型金属錯体の磁気相転移・磁気構造、有機金属化合物の分子運動・電子状態の温度変化、Fe(II)スピנקロスオーバー錯体の相転移、擬一次元MMX型混合原子価錯体の相転移、サーモクロミズム錯体の相転移・分子運動、集積型混合原子価錯体の電荷移動・スピン状態変化と、多岐にわたった非常に興味深い内容の講演であった。



徂徠先生は、大阪大学理学部化学科在学時から日本の化学熱力学の権威であられる関集三先生の研究室に所属され、低温断熱型熱量計の開発とそれによる金属錯体磁性の熱力学的研究を始められたが、西ドイツのPhilipp Gütlich教授の研究室に留学されて ^{57}Fe メスbauer分光測定法を学

ばれた頃から、世界に先駆けて熱容量測定を行われたスピנקロスオーバー現象を示す金属錯体の物性研究を本格的に進められた。特に、スピנקロスオーバー現象を伴う相転移による大きなエントロピー変化に、スピン多重度ばかりでなく振動自由度が大きく関わっていることを見出されたのは、非常にインパクトのある成果である。また、化学熱学実験施設所属時には当時非常に珍しかった ^3He - ^4He 希釈冷凍機を用いた極低温断熱型熱量計を開発され、それ以降金属錯体を中心とした分子磁性体の磁性研究を大いに前進された。徂徠先生のこのような金属錯体の熱力学的研究の輝かしい成果が今回の受賞につながったのは言うまでもないことである。

徂徠先生は論文・総説執筆など、現在でも精力的に活動されている。徂徠先生の益々のご活躍をお祈り申し上げる。

（大阪大学大学院理学研究科 宮崎 裕司）



第48回熱測定討論会講演要旨集 頒布のお知らせ

価 格：2,100円（税込，送料別）

会 期：2012年8月22日～24日

会 場：近畿大学

内 容：ICTAC15とジョイント開催の第48回熱測定討論会。討論会プログラム分の要旨です。

お申込は、下記事務局まで、（1）書名、（2）送付先郵便番号・住所、（3）所属・部署、（4）氏名、（5）電話番号をご記入の上、書面にてご連絡下さい。電子メールにて受付けいたしております。

折り返し、現品と請求書をお送りいたします。見積書など必要な方はお申込の際に記載願います。

日本熱測定学会 事務局 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-6-7 宮沢ビル601

TEL. 03-5821-7120 FAX. 03-5821-7439 E-mail: netsu@mbd.nifty.com